

宮下大使の青森市訪問

宮下大使は、1月20日及び21日の2日間、青森市を訪問し、小野寺青森市長、青山青森県副知事（三村知事が出張中のため）を表敬訪問するとともに、青森中央学院大学において「中央アジア・タジキスタンと日本」との演題の下、講演しました。青森市は2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるタジキスタンの「ホストタウン」として登録されており、既に昨年夏、柔道選手団の強化合宿を受け入れた経験があります。今回はオリンピック本番及びそれ以降の青森市とタジキスタンとの協力関係につき意見交換するとともに、本年夏に向けてタジキスタン選手団を受け入れて頂ける青森市民の皆さんに、現地在勤者のひとりとしてタジキスタンという国の現状につき紹介するために青森市を訪問しました。また、タジキスタンからの選手団派遣が見込まれる各種目の練習場などのスポーツ施設も視察しました。

小野寺市長表敬

小野寺市長とは、ホストタウンに関する意見交換に加えて、昨年11月に「ねぶたマスター」を含む青森市代表団がタジキスタンを訪れ、現地で日本語を学ぶ学生たちと「ねぶたワークショップ」を開催し大成功を収めたことが話題になりました。また、タジキスタンとの今後の交流について、ホストタウンを一過性のイベントで終わらせることなく、オリンピック終了後も市民レベルでの交流が続いていくよう相互が努力していくことで意見が一致しました。



小野寺市長を表敬する宮下大使



左：小野寺市長 中央：宮下大使
右：前多副市長

青山副知事表敬



左から2番目：
青山副知事

中央：宮下大使

青山副知事からは、青森市のホストタウンとしての積極的な取り組みを高く評価しているとの発言がありましたが、宮下大使からは、青森市とタジキスタンとの交流関係がオリンピック終了後も末永く続くよう県の立場からも引き続き協力をお願いしたいと述べました。

講演会

青森中央学院大学で開催された講演会には、同大学をはじめとした市内の大学生、県内国際交流団体の関係者、県や市の職員など100名近くが集まった。宮下大使からは、中央アジアの歴史、旧ソ連崩壊後の中央アジアの地域情勢、中央アジア地域とロシア及び中国との最近の国際関係、中央アジアのポテンシャルと各国が抱える「債務の罨」のリスク、タジキスタンの情勢と日タジキスタン二国間関係の展望などについて講演を行いました。講演終了後も参加者からは多数の質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われました。



講演する宮下大使



講演の様子